

MM総研大賞2014

発表します。次世代のスマート社会を支える製品・サービス。

MM総研は、スマート社会を支える優れたICT製品・サービスの中から「MM総研大賞」を選び表彰していますが、11回目となる「MM総研大賞2014」では、次世代のスマート社会の核となる15の製品・サービスを選定しました。

審査は「Webアンケートによる消費者調査」「企業への取材評価」「有識者調査」を実施。

製品・サービスの認知度や使いやすさ、機能性、革新性、独創性、基盤製品・サービスとしての可能性及び企業の取組みなどを総合的に評価しています。

スマートソリューション部門

低価格SIMサービス分野

最優秀賞



「OCN モバイル ONE」

月額900円～の料金で下り150MbpsのLTEを利用できるSIMカードを提供。国内で初めて1日毎に容量制限を設けることで高速・低価格のサービスを実現。大々的なテレビCMやコンビニでの販売によって低価格SIM市場の認知向上を図り、利用者の裾野を広げた。参入1年で同市場におけるシェアNo.1を獲得。認知度・信頼性などで高い評価を得た。

低価格SIMサービス分野

最優秀賞



「b-mobile」

日本通信のb-mobileは日本初のMVNOとしてSIM市場の開拓、拡大に大きく寄与している。提供する付加価値も「価格」だけにとらわれず、「プリペイド」、「音声通話」、「外国人旅行者」、「FMC」など、様々な価値を訴求しMVNOの市場を切り開いていることが高い評価を集めた。

公衆無線LANサービス分野

最優秀賞



「Japan Connected-free Wi-Fi」

日本各地の空港・鉄道会社や自治体などが独自に運用している無料公衆無線LANサービスを統合的に検索・利用できるアプリ。英語や中国語、韓国語にも対応しているため、海外から訪日する外国人旅行者でも手軽に利用することが出来る。サービスごとの個別登録が不要となる利便性やWi-Fiインフラの高い信頼性が評価された。



第11回 MM総研大賞 受賞

新電力分野 最優秀賞



Ennet 「EnneSmart」

法人向けデマンドレスポンスサービス「EnneSmart」は、節電要請時の節電量に応じて、電気料金を割引くサービス。Webブラウザ上で現在の電気使用量や毎月の電気料金、デマンド監視の情報を提供することで、電力を見える化し節電をサポート。経済的な電力として期待を集めている。エネットは、ICTを活用してクリーンな電力を効率的に供給。2016年の全面自由化を見据えて急増する新電力(特定規模電気事業者:PPS)の中で、新しいエネルギーの価値の提供に成功し、約50%の市場シェアを獲得している。

ワークスタイル変革サービス分野

最優秀賞

「オフィスまるごとサポート」

NTT東日本

「オフィスまるごとサポート」

企業のオフィスICT環境の管理に係る負担の軽減を目的としたトータルサポートサービス。オフィスICT環境の状態監視や遠隔操作により、一元的に円滑なICT環境の導入から運用に至るまでのサポートをワンストップで提供。ICTの運用管理コストを削減したい企業などを中心に、認知度に加え、信頼性や利便性で高い支持を集めた。

SDNソリューション分野

最優秀賞



「NEC SDN Solutions」

NECはSDNのリーディングカンパニーとして国内外の100社以上にSDNを活用したシステムを導入。SDNを用いた最先端ネットワーク基盤の構築で、ネットワークの柔軟な構成変更、効率的な運用管理、安全性の向上などを実現し、ICTを活用した新システム導入時間を短縮するなど、新たなビジネスの創出を支援している点も高く評価された。

カーテレマティクス分野

最優秀賞

HONDA

「インターナビ」

ホンダが独自開発した自動車向けテレマティクスサービス。インターナビ会員の車両が走行したデータを収集・分析するフローティングカーシステムなど、ビッグデータを活用した渋滞予測情報サービスを他社に先駆けて提供したほか、防災・減災への取組、ICT技術を活用した安全・安心に関する機能を強化している点が高く評価された。

話題賞

TOYOTA

「i-ROAD」

i-ROADは全幅87cm、全長2.3mというバイク並みの超小型EV。安定したコーナリングを実現すべく、速度とコーナーの曲率に応じ左右の前輪が上下する点が特徴的。愛知県豊田市などで実証実験中。14年度の期待度や将来的影響度が高い支持を集めた。



ぐるなび

「ぐるなびPRO 認証システム3.0」

最新バージョンとなる3.0は「SMARTチェックイン」との連動で、網羅的に来店客が可視化され、効果的なリピーター育成支援を図る。さらに、ぐるなびのポイントプログラムによる簡単決済を実現し、集客・販促に留まらず、顧客管理、経営分析等の飲食店経営全般に亘りIT化を支援する。

SAMSUNG

「GALAXY Gear」 「Gear 2」 「Gear Fit」

日本国内で2013年10月に「GALAXY Gear」を販売開始。今年5月には後継モデルの「Gear 2」、および曲面ディスプレイを採用した「Gear Fit」を導入。ウェアラブル端末へのいち早い取り組み状況が高く評価され、さらなる発展に期待が高まる。



Microsoft

「学校のICT化支援事業」

将来を担う人材育成等を目的に教育現場のICT化を支援。一人一台の学習用端末や電子黒板の整備、クラウドによる児童向け時間割やデジタル教科書等の教材コンテンツだけでなく、教員向けの校務支援機能など、学校現場のICT化のトータル支援が評価された。



SONY

「4K放送機器システム」

4K映像の撮影・映像加工・収録・モニタリングまでをトータルで提供。最先端の4K映像技術及びシステムによって、高精細かつ臨場感と迫力のある映像を提供できる。次世代の高画質中継放送を支えるシステムとして、国際的なスポーツイベント等での活用が期待される。



radiko.jp

「radiko.jpプレミアム」

配信エリアの枠を超え、「radiko.jp」に参加しているラジオ局を全国各地どこにいても聴くことができるサービス。エリアの枠を超えてラジオを聴きたいというユーザーニーズに応えるなど、話題性の高さと新しいラジオの楽しみ方を提供した点が高く評価された。

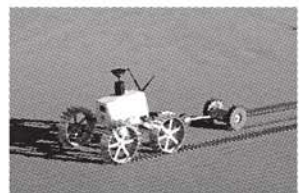


数ギガbpsでの高速データ転送を可能にする高速大容量の無線通信規格。従来にはなかった新しい無線接続方法で、室内向け端末の低遅延なマルチギガビット接続を実現する。「WiGig CERTIFIED」製品は2014年から各社より随時市場に投入される見込み。

HAKUTO

「月面探査事業ハクト」

月面探査事業ハクトは、Googleがスポンサーの月面無人探査レース「Google Lunar XPRIZE」に日本で唯一参加するチーム。「はやぶさ」開発メンバーの東北大・吉田和哉教授を中心に開発を進める。特に将来的影響力が高い支持を集めた。



スマートTVサービスAWARD 2014

最優秀賞

NTTぷらら

「ひかりTV」



ひかりTVサービスキャラクター「ひかりカエル」

選定理由
「ひかりTV」は「先進性」、「コアバリュー」をはじめとする評価対象8項目のうち5項目で最高評価を獲得。昨年までの「映像配信サービスAWARD」と合わせて、通算4年連続の「最優秀賞」に選ばれた。

スマートTVサービスAWARD
これまでの「映像配信サービスAWARD」に替わり、市場の変化を背景としてMM総研が2014年に新設した表彰制度。

スマートTVサービスAWARD2014審査委員
審査委員はMM総研大賞審査委員の安田 浩氏、北村 森氏の両氏の他、森 祐治氏(電通コンサルティング常務取締役)の3名で構成された。

審査委員 (敬称略)



審査委員長 安田 浩
東京大学名誉教授
東京電機大学
未来科学部 学部長



前川 徹
一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
専務理事



藤沢 久美
シンクタンク「フィロ」
代表
法政大学大学院 客員教授



北村 森
商品ジャーナリスト
サイバー大学 客員教授



加太 幹哉
MM総研 研究主任